南方造林とalang－alang

わが国の木材消費量の3分の2が輸入外材に占められるようになってから既に6年になる。戦後，林野庁が熱心に推進した植林地から木材が大量に生産される今世紀末になっても，木材自給の見通しは暗く，外材依存は避けられそうにもない。

外材はその産地によって南洋材，米材，北洋材とその他に大別される。戦前からラワン材の名で馴の深い南洋材が40～50％を含め，また，わが国では生産の少ない大径の広葉樹が多いので，きわめて大切な木材である。しかし，南洋材も無限ではなく，これら発展途上国の生活水準が上がり，意識が高まるにつれて伐採跡地の植林が要望され，最近では，木材伐出の代償として植林が義務づけられる傾向がみられる。さきに通産省が南洋材を扱う木材関連企業に補助金を出して，南方諸国に植林地をつくらせた南方造林は，上記の趣旨によるものである。

2年前から国際協力事業団がフィリッピン政府の要請に応えてパンタバンガン地区の草原ではじめた植林は，大筋では南方造林の一つだが伐採地とは条件が著しくちがう。恐らく，焼畑農耕のため森林が焼き払われ，やがて地力がおちて放棄され，半湿地化した土地に，alang－alang　などイネ科草本が優占した荒蕪地である。植林のための地拵えや手入刈の目的でＤＰＡやＴＦＰなどの除草剤が有効と思われるが，目下，人手があるので手刈を行っている。南方に数百萬 ha あるこの種の草原に除草剤が使われる日も近いことであろう。

〔財団法人　日本植物調節剤研究協会理事
社団法人　日本林業技術協会主任研究員　加藤善忠〕

目　次
（第１２巻第１２号）

野菜畑における除草剤の効率的使用法…2
＜野菜試験場久留米支場　松尾誠介＞
1. 野菜の種類による選択……2
2. 雑草の種類による選択……3
3. 土壌中の残効性による選択……4
4. 土壌中の移動性による選択……5
5. 処理方法・処理時期による選択…5
6. む　す　び　6

昭和53年度水稲・畑作関係生育調節剤試験成績概要……6
＜財団法人　日本植物調節剤研究協会＞
昭和53年度水稲・畑作関係生育調節剤判定結果および使用基準……7

昭和53年度春夏作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績概要……7
＜財団法人　日本植物調節剤研究協会＞

昭和53年度桑園関係除草剤・生育調節剤試験成績概要……22
＜財団法人　日本植物調節剤研究協会＞

昭和53年度林業関係除草剤・生育調節剤試験成績概要……27
＜財団法人　日本植物調節剤研究協会＞

外国文献抄録……30

植調協会だより……31